

令和4年度（令和3年度分）学校関係者評価報告書

テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和4年度（令和3年度分）自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

- (委員長) 村山 忠 公益社団法人 園芸文化協会 事務局 (元事務局長)
- (委員) 大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 会員
テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 鈴木 靖子 公益社団法人 日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 星野 学 本校卒業生代表
- 岡部有希子 本校卒業生代表
- (事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
- 古谷 民子 同 教務部長
- (コース担当教員)
- 萩原 文雄 同 花き生産コース コース長・農場長
- 齋藤 仁 同 野菜生産コース コース長
- 伊藤 弘充 同 グリーンコーディネートコース コース長・副農場長
- 柿沼 真吾 同 フラワーコーディネートコース コース長
- 細井 薫 同 造園コース 副コース長

2. 実施日時 令和4年9月28日（水） 15:00～17:00

3. 令和4年度（令和3年度分）自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

- ・学校としての将来構想はおおまかなものはあるようだが、具体的に定め、全教職員が共通理解のもと、各自が能動的に行動できるよう努めてほしい。
- ・学校全体の構想も大切であるが、コース毎の目標を立てることも重要である、

2) 学校運営

- 大よその運営方針や事業計画は定められているので、適宜見直して改訂を行いながら、それにそった運営を行ってほしい。
- ・情報システム化は専門家に依頼するなどして少しずつ進めていってほしい。

3) 教育活動

- ・かねてより課題になっているにもかかわらず、授業評価についてはまだ実施されていないため、早急に対応すべきである。初めから完璧なものを目指すのではなく、徐々に改良を加えていけばいいのではないか。
- ・講師とのコミュニケーション、講師への情報提供については密に行ってほしい。
- ・講師には担当科目以外のカリキュラムの情報提供も行ってほしい。

4) 教育成果

- ・毎年就職率、資格取得率は高い水準を保っているため、引き続き指導に注力してほしい。
- ・在校生だけでなく、卒業生の活動についても把握し、つながりを持つことが必要である。

5) 学生支援

- ・同窓生への支援体制も少しずつでもいいので整えて行ってほしい。
- ・在校生の相談窓口のようなものがあるといいのではないか。

6) 教育環境

- ・最新の機器や設備などは展示会や企業での見学と通じて学生に紹介するようにすればよい。

7) 学生の募集と受け入れ

- ・募集活動そのものは問題なく行われているとはいえ、入学定員 80 名を満たすことが本来の適正な募集活動といえる。

8) 財務

- ・企業や業界団体とのタイアップで少しでも収入増につながるとよい。
- ・以前よりネット販売などの話も出ているが、そろそろ具体的に立ち上げてほしい。

9) 法令等の遵守

- ・学生間でのトラブルが発生したときの対応も考えていかなければならない。
- ・個人情報などを扱っている学校においては、一切の問題がないように常に点検し対応していくべきである。

10) 社会貢献

- ・地域の講座等はコロナ禍でやりにくい面もあるかもしれないが、学校の知名度が上がるなどの効果もあるので、できるかぎり実施できるとよい。
- ・職業訓練は現在受け入れを行っていないが、社会貢献の一つであるため、再開できるとよい。

3. 総評

上記 10 項目について、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、学生募集に関しては学生数の増減は財務だけでなく教育活動や学生支援、教育環境など、多岐にわたり影響を与えることから、引き続き教職員一丸となって学生数の増加に努めることを望みます。

以上